

## 設問1 全体的な出題のねらい

日本語の一般的な単なる知識だけでなく、医療者として、目に見えない痛みや違和感を共有することが可能かどうかを問う設問としています。

### 問1：〈対峙しあう関係〉と〈並ぶ関係〉の違い

**概念の抽出能力：** 状況による関係性の質的变化を正確に読み取れるか。

**二項対立の整理：** 物理的な距離ではなく、心の向きや目的の共有という抽象的な概念を、20文字という制約の中で簡潔に言語化できるか。

### 問2：「自己参照 (self referencing)」の説明

本文中の「自分の身体に聞いてみる」「心の理論」といったキーワードを適切に組み合わせ、定義を再構築し、論理的能力を有しているかを問うています。

**問3：**具体例から抽象例への昇華およびその内容を記述できるかを問うています。

## 設問2(問題1～5)の出題意図

英語と日本語の能力の確認と脳卒中に対するリハビリテーションの理解度を問うています。

## <設問1 解答例>

問1 下線部(1)、テニスを例にとって、〈対峙しあう関係〉と〈並ぶ関係〉の違いについて、本文の内容を踏まえてそれぞれ20文字以内で説明しなさい。句読点は1字に数えます。 各5点 10点

<対峙しあう関係>

相	手	と	む	き	合	い	、	ボ	ー
ル	を	う	ち	あ	う	関	係		

<並ぶ関係>

お	互	い	に	相	手	の	状	態	に
あ	わ	せ	て	加	減	す	る	関	係

問2 下線部(2)、「自己参照 (self referencing)」とはどのようなことか、文章中の言葉を用いて、100字以内で説明しなさい。 20点

自らの身体が感じていることや自分の思考の様式を手がかりに、相手の気持ちや考えを探ろうとする方略のこと。言葉がなくても、自分を基準に置き換えて解釈することで、他者の内面を把握しようとするプロセスを指す。

「自らの身体が感じていること」

「思考の様式」

「手がかり」

「方略」

の4語が含まれていたら満点 1つごとに5点

問3 下線部(3)、「相互のなりこみ」とはどのような状態ですか。文章中の例を用いて200字以内で説明しなさい。 20点

(模範解答)

公園の散歩の例では、双方が相手の視線に気を配り、自分の身体を手がかりに相手の気持ちを探り合う。このように互いが「なり込み」合うことで、一方的な理解を超えて身体の状態が近づいていく。この「相互のなりこみ」の結果、言葉を交わさずとも相手の進もうとする方向が分かり、いつの間にか二人の歩調が合ってしまうような、身体レベルでの高度な同調が生じている状態を指す。

- ・ 具体例(公園での散歩)の記載があれば 7点
- ・ 機序についての記載があれば7点 自己参照を含めて、お互いになりこむこと、感覚を推しはかる
- ・ 結果 このプロセスの結果としての同調について記載があれば6点

## < 設問 2 解答例 >

著作権の都合により解答例を公開しません。

( 配点 : 問1～問5 各10点 )